

品名：クリップグリップヒーター2 USB タイプC 15W 品番：L1205 対応：汎用品・出力 12V1.5A (18W) 以上のUSB タイプC PD チャージャー  
CLIP GRIP HEATER2 USB Type-C 15W #L1205 General-purpose・USB type-C PD charger with output 12V 1.5A (18W) or more



■オートバイ整備の基本的な技能や知識をお持ちにならない方は作業を行わないでください。■取り付けの際、車種ごとのメーカーサービスマニュアルと併せて作業を進めてください。■不正な取り付け、改造、仕様変更をしないでください。■異常を発見した場合は直ちに走行を停止し、点検してください。■仕様については予告なく変更する場合があります。

■本製品の保証期間は1年間です。お買い上げ日のわかる領収書もしくは納品書を本書と一緒に大切に保管してください。■不適切なご使用方法や事故による製品の故障（過電圧故障や圧迫による破損、コードの引っ張りやねじれによる断線等）については保証の対象外です。■保証期間内に製造上の原因による品質不良が見つかった場合は、お買い上げの販売店様までご連絡ください。不良内容を確認のうえ、製品を修理もしくは交換させていただきます。ただし、本製品の修理・交換以外のいかなる事柄（物的損害、人的損害）に対して、弊社は賠償の責任を一切負いかねます。あらかじめご了承ください。

## ！警告

取扱いを誤った場合、死亡または重傷及び傷害に至る可能性が想定される場合を示しております。

## 注意

取扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しております。

## ！警告

### やけど

12.5W でも表面温度が 80°C を超える場合がありますので、素手では使用せず厚手の冬用グローブを必ず着用ください。

極寒下 & 厚手のグローブ使用時でも 12.5W までとし、15W モードは急速加熱用としてご利用ください。

長時間連続して使うと無意識のうちにやけどをする恐れがあります。目安として連続使用は 30 分間程度にしてください。

## ！警告

### 点検

使用する前にヒーターの点検を行なってください。表面に亀裂や剥離の等の破損が見られる場合には使用しないでください。

本製品は消耗品です。経年と使用頻度で劣化しますので、定期的に新品に交換してください。

異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停車させ、異常箇所を点検してください。

## 注意

### 電源

本製品は出力 12V1.5A (18W) 以上の USB タイプC PD ポート装着車もしくはモバイルバッテリー専用です。電力の足りない USB ポートでは正常に作動しません。

配線を改造して車両の 12V 電源に直接接続した場合は過電圧で故障してしまいますのでご注意ください。

グリップとコントローラー部は耐水設計ですが、USB プラグ及びポートは防水ではありませんので、ご注意ください。

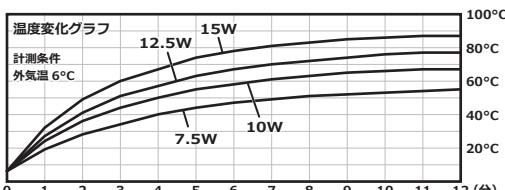
## 注意

### バッテリー

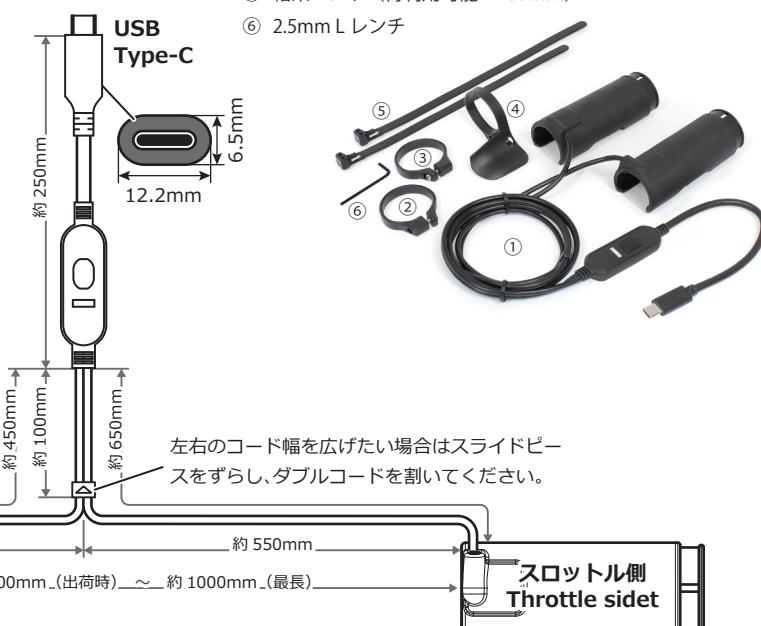
一般的なグリップ交換ヒーターと比べてバッテリーへの負荷は少ない製品ですが以下のことご注意ください。

「旧車や原付き等の発電量が少ない車両」や「乗らない期間の長い車両」、「電装部品を色々追加している車両」、「ストップ & ゴーの多い車両」はバッテリーの電力が不足しがちです。このような車両では充電器等で日常的にバッテリーのメンテナンスを行なってください。

## 商品内容



- ① グリップヒーター本体・USB タイプC (コントローラー付き) 【1個】
- ② リング型クランプ左用 (スクリュー・ナットを組込済) 【1個】
- ③ リング型クランプ右用 (スクリュー・ナットを組込済) 【1個】
- ④ スロットルアシスト型クランプ (ボルト・ナットを組込済) 【1個】
- ⑤ 結束バンド (再利用可能・200mm) 【2本】
- ⑥ 2.5mm L レンチ 【1本】



## モバイルバッテリーでの稼働時間について

モバイルバッテリーの表記容量は内蔵電池の1セル 3.6V においての容量であり、USB ポートから出力可能な容量とは異なります。

また、内部の昇圧回路等によるロスで、実際に使える効率は 60~75% 程度と言われています。※内蔵セル数や品質（表記容量の精度と回路ロスの具合）や劣化具合により結果は上下します。

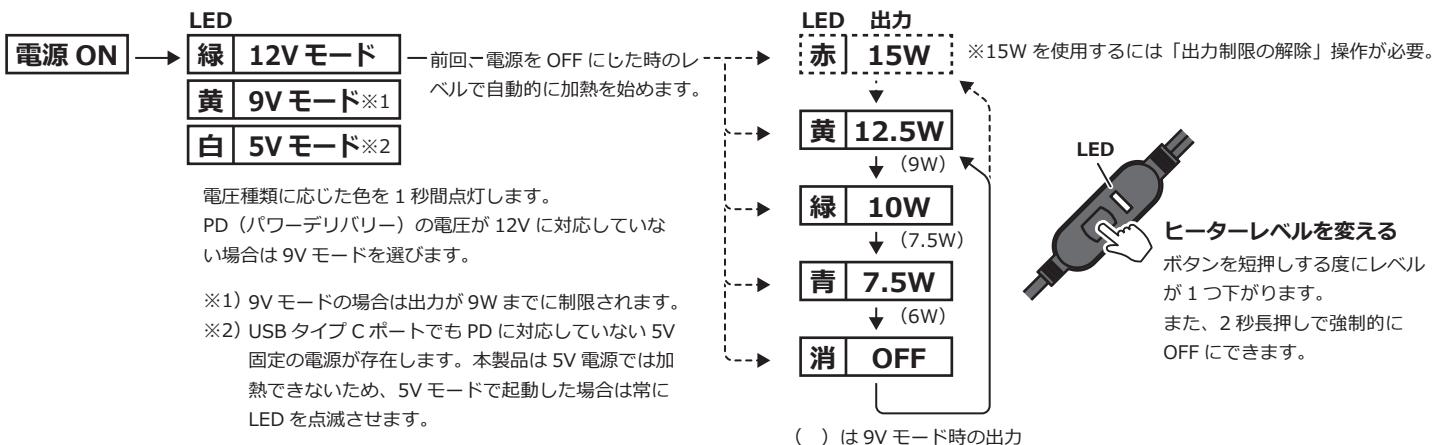
### 大まかな想定稼働時間の計算方法

例) 3200mAh × 3 セルの製品で 15W 加熱

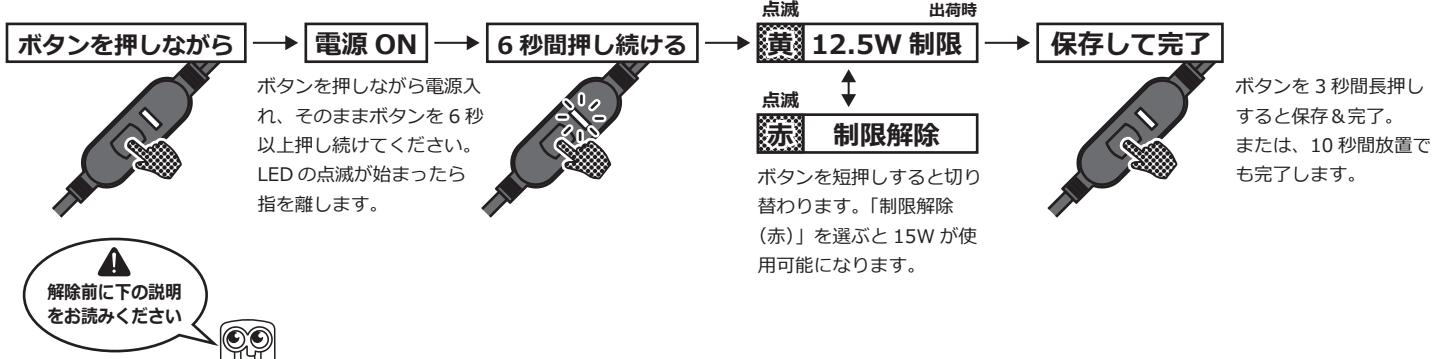
$$\frac{9600 \text{mAh} \times 10.8 \text{V} \times 0.75}{12 \text{V}} \div \frac{1250 \text{mA}}{1250 \text{mA}} = \text{約 } 5 \text{ 時間}$$

A : 表記容量  
B : 内蔵電池の電圧  
C : 効率 75% (仮)  
D : USB の電圧  
E : 消費電流  
F : 想定稼働時間

A : 表記容量  
B : 内蔵電池の電圧  
C : 効率 75% (仮)  
D : USB の電圧  
E : 消費電流  
F : 想定稼働時間

**LED インジケーターが点滅する場合**

車載用 PD 電源の多くは、車体のバッテリー電圧が 12V 未満に下がると出力を止めるまたは電圧を下げる動作を行います。  
12V モード時に 10.5V 未満・9V 時モードに 7.5V 未満になると、本製品は LED を点滅させて給電電圧の不足を知らせます。  
本製品は 5V 電源では加熱できないため、5V モードで起動した場合は常に LED を点滅させます。

**▲ 出力制限の解除****出力の 12.5W 制限とは**

本製品は 15W の高加熱が可能ですが、使用方法を誤るとやけどの恐れが高まるため、出荷時は「12.5W 制限」をかけています。  
15W を使用するには出力制限の解除操作が必要です。  
同様の操作で再度制限をかけることができます。15W は必要無いと感じた場合は「12.5W 制限」をかけることを推奨します。

**！警告  
やけど**

12.5W でも表面温度が 80°C を超える場合がありますので、素手では使用せず厚手の冬用グローブを必ず着用ください。  
極寒下 & 厚手のグローブ使用時でも 12.5W までとし、15W モードは急速加熱用としてご利用ください。  
長時間連続して使うと無意識のうちにやけどをする恐れがあります。  
目安として連続使用は 30 分間程度にしてください。

## ① 配線の取り回し

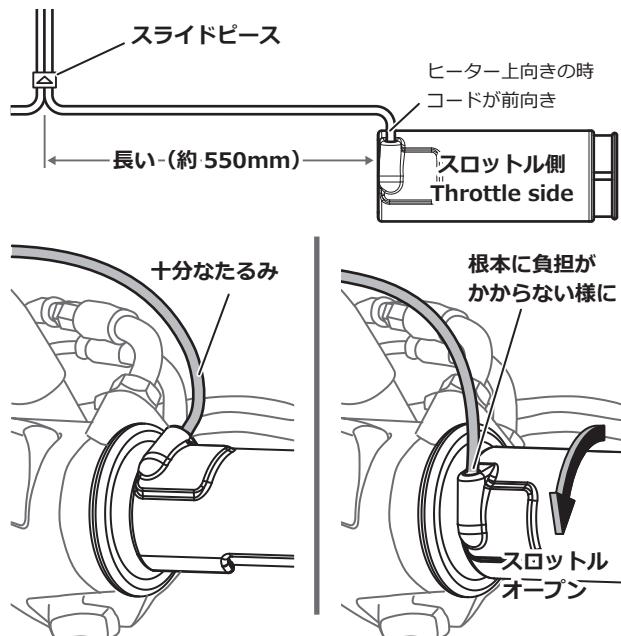
ヒーターの装着前に、USB プラグの接続とハンドルグリップまでの配線の取り回しを行います。

- ・左右でコードの長さが異なります。コードの長い方がスロットル側（右側）用です。



スライドピース

左右のコード幅を広げたい場合はスライドピースをずらし、ダブルコードを割いてください。



### 注意

スロットル側は断線防止のためにコードの根本に負担がかからない様、十分なたるみを持たせてください。

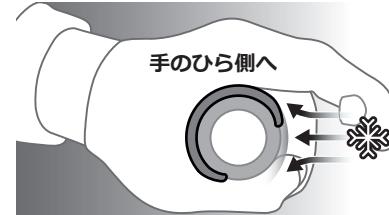
ヒーターの装着後、スロットルを全閉 / 全開の各状態でよく確認してください。

## ② 加熱面の向き

真冬は走行風で表面がどんどん冷却されるため、風が直撃しない手のひら側（上向き）への装着をおすすめします。

走行風を防ぐハンドルカバーと組み合わせる場合は、指先を温められる下向き装着がおすすめです。

\*スロットルアシスト型クランプを使う場合は上向き装着のみになります。



## ③ ヒーターの装着

ヒーターを加熱し、樹脂が少し柔らかくなつてから装着します。

まずどちらかの端を押し込み、それからもう一方の端を手早く押し込みます。

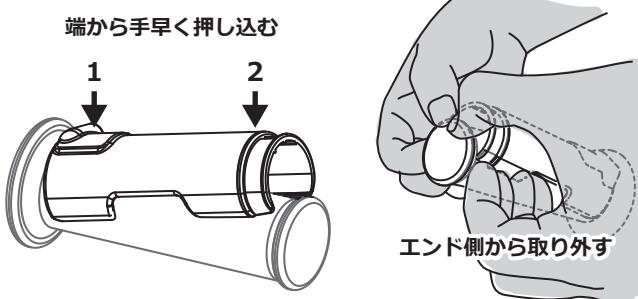
### 警告 破損・やけど

低温時は樹脂が固くなり、無理に脱着すると破損する恐れがありますので、作業前にヒーターを加熱して樹脂を少し柔らかくしてください。  
加熱のし過ぎによるやけどにご注意ください。

#### ヒーターの取り外し

ヒーターを加熱し、樹脂が少し柔らかくなつてから取り外します。

エンド側に指を引っ掛け、グリップを押し出す様に端から外していくます。



## ④ 補助固定具の装着

3種類からお選びください。

#### ■ リング型クランプ

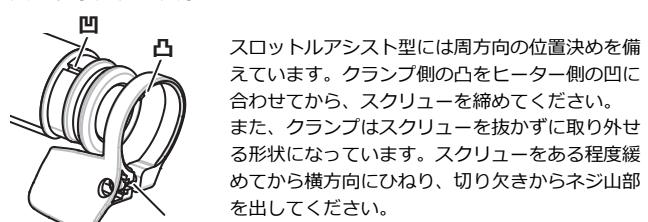
- ・左右両対応
- ・加熱面の上向き / 下向き両対応
- ・接合部を下方にしてください。(グリップの邪魔にならない位置)



#### ■ スロットルアシスト型クランプ

- ・スロットル側のみ（右側）
- ・加熱面は上向きのみ（位置決めがあるため）

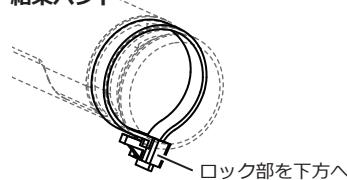
#### スロットルアシスト型クランプ



#### ■ 結束バンド

- ・左右両対応
- ・加熱面の向きは自由
- ・工具無しで脱着可能
- ・ロック部を下方にしてください。(グリップの邪魔にならない位置)
- ・固定具としての使用の他、コードの固定にも利用できます。

#### 結束バンド



### 注意

クランプのスクリューの締め過ぎにご注意ください。

グリップへの食い込み具合と空転しないかを確認しながら締め込んでください。必要以上に締め込むと、グリップが変形したり、クランプが破損しますのでご注意ください。